京城新報

●新聞料 ▲一部二錢 [illegible]
●廣告料 [illegible]
◎陰暦 十二月二日
發行兼編輯 印刷人 山下英爾
京城西署西小門通
發行所 京城新報社 電話六六三

京城樂友會第三回音樂會收支決算報告

收入の部

總收入	五〇六、五〇〇
內譯	
入場券賣上高	四六二、〇〇〇
寄附金	四四、五〇〇

支出の部

總支出	四〇七、四六〇
內譯	
歌舞伎座使用料	九六、三〇〇
陸軍軍樂隊支拂及接待費	六六、四五〇
和洋紙類及印刷代等	三二、七〇〇
通信費	六、六九〇
劇及舞踏用材料及雜費	五〇、一七〇
演奏者接待費	三九、〇七〇
辨當代	七五、六〇〇
道具方等備入料	三九、九四〇
差引殘高	九九、〇四〇

右殘高は音樂堂建設費の一部として京城居留民團に寄附致し候

明治四十年十二月 京城樂友會

坐禪應用の劍道

足立栗園

禪を劍道の上に應用したことなどいへば、世人は直に柳生但馬守が澤庵禪師に參禪した事を想像するのであるが、かゝる想像談のみならず、實際幕末に於て坐禪を劍道の上に應用して一機軸を出した一人がある。其人は當時の兵法者と呼ばれた白井鳩洲翁である。

白井鳩洲は名を義謙といひ、通稱を亨と呼び、備前の人で性質頗る磊落耿介、夙に父を喪ふて母の手に育てられ、母賢なりし爲に課業甚だ嚴で、狹くも文武兩道に達し、氣字壯にして膂力强かりしため、自ら請ふて九州及び四國に武者修行を爲し、頗る聲譽を高めたが、武藝は現に江都が日本第一であると聞いて急ぎ東上し、己が同派なる高崎の家臣寺田五右衛門宗有に其身を寄せたのである、所が此寺田氏頗る異數の人であつて、一日兵法を論じた所が、其の言甚だ巧みである、然らば口先よりも先づ手並を拜見したいといふので、立會つて見た、豈圖らんや此人恐るべき腕前であつて、鳩洲一たび竹刀を採つて場に臨つたけれども、毫も打込む隙がない、これは名實一致、然して學ぶべき名師であるといふので、鳩洲は早速竹刀を投じて膂を執つた。そこで寺田氏

め其謙遜にして向上の精神に富めるに感じ、で、之に其秘訣を授けたのであるが、固と〳〵鳩洲は力自慢である故に、どうも其技の妙所に達し難い、それを懇々と寺田氏より諭されて遂に發勇刻苦し、一日鐵槌で肩を碎き、修養すること數月にして、始めて入神の城に達したのである。此に於て寺田氏も嘆賞して允可を與へたのであるが、かく無双の臂力ある上に、此術を自得するに至つたのであるから、出藍の技、終に其師を凌駕するに及んだのである。

所で此師寺田五右衛門の妙術といふのは全く之れを白隱禪師の弟子なる伊豆瀧澤寺の東嶺和尚に得たもので、これは畢竟參禪鍊丹の結果であつたのである、然るに未だ兵法上に應用して充分なりといふ事は出來ず唯單に己が有として居つたものに過ぎなかつたのを鳩洲に至つて、終に動中の工夫を凝らし、空中大氣の活動あることを察して鋒尖の赫機を觀得し、よく身心を虛にして敵を服するに天眞無爲の道を以てする得るに到つたのである、かくて鳩洲は六十餘歲迄世に長らへたが其技少しも衰へず當時之を打破り得るものがなかつたと傳へて居る

さて此鋒尖の赫機といふのは畢竟鍊氣術によつて其人の身体中より發する衛氣の中に含まるゝ所の光輝が自然に刀の鋒尖より發するといふのであつて、ツマル所血氣の勇を却け、耳目の用を廢して、唯だ臍下丹田を樞軸として外氣と應和し其空機を以て擧動を遮り蔽ひ、其赫機を發して敵の肺肝を透し貫く術を自得するのである、之は到底言說の及ぶ所ではないが、精神感應力の結果、自然に此効力を及ぼし得る域に達するに相違ないのである、老子の語に「善く生を攝する者は陸に行きて兕虎に遇はず、軍に入つて甲兵を被らず、兕も其の角を投ずる所なく、虎も其の爪を措く所なく、兵も其の刄を容るゝ所なし、夫れ何故ぞ、其死地なきを以てなり」といつて居るのが即ち之が自得の境致を示して居るのであつて、たとへば一切の忘念を放下して、澹然虛靜の境に到り、無生の眞理を得たものゝ體は、刄杖といへども之を害することが出來ず猛獸も賊することが出來ぬ故である、又莊子の言に「其天守全く其神郤なき時は物いづれよりして入らん夫れ醉者の車より墜る、疾むと雖も死せず、骨節人と同しく而も犯すこと人と異なるは其神全ければ也、乘るも亦知らず墜るも亦知らざる也、死生驚懼、其胸中に入らず、是故に物を遻んで慴れず、彼れ全きを酒に得て而も猶は是の如し、況んや全きを天に得るをや」といつて居る如くは、全く老子の前言と同意であつて必ずしも架空の想像を語つて居るのでなく實に精神上の微妙なる一作用を含けて居るのである、これが即ち坐禪の鍊氣術丹法であつて鳩洲は之を己が長所なる劍道の上に應用し得たものに相違ないのである

對歐亞大陸連絡說

露國前藏相シボフ氏が歸途長崎にて浦鹽敦賀を連絡して以て歐亞大陸の交通路と爲すべしと放言せるに對して滿鐵副總裁事務取扱中村是公氏は訪問者に語つて曰く露國の西比利亞鐵道に對する將來の抱負は蓋しシーボフ氏の揚言を俟たずされど世人は先少しく浦鹽と大連との東亞に於ける地勢的關係如何に注目せざるべからず歐亞を連結して浦港を其一大門戶となし歐羅巴より支那及日本に來る貨物は勿論其旅客の大部をして擧げて南滿鐵道線を棄てゝ浦鹽に向はしめむには浦港は餘りに北に偏したり況んや東洋より歐洲に向ふ旅客及貨物をや加之斯の如き計畫は多年の商業慣習を破らむとするものにて其一朝にして目的を達せんことの難きは猶大連の營口に對するが如けむのみ滿鐵は己に地勢に於て此利を占め加ふるに慣習上滿洲內地及び哈爾賓地方の貨物は七分通を獨占す無論此等に甘んじて經營を怠るべからずと雖も此れを利用して將來克く露國の計畫に對抗する丈の覺悟は固より之を示せり但だ露國は往々他國人普通の觀念を以て律すべからざる國柄なれば政府之を保護し金を與へ若くは特別のコンデキションを付して保護を與ふるが如きことあらば別問題なり何れにしても大連より上海を中心に漢口其他南淸の主要地に通ずる海上の連絡を開始することは一日も緩ふすべからざる急要問題たり云々

佳羅丹之籤

玉井南軒

名所雪
肌寒き風の吹き來るともふ間に越の白根は雪ぞ降りける
旅枕冷ゆる夜風に眠さむれば雪降りにけり白河の關

川氷
渡し場の早き川瀬も舟つなぐ一夜のかげは氷るべらなり
岸にはる川の氷はそのまゝにとけつむすびつ流れ行くらむ

峰炭竈
朝霧の晴れ行く峯に白雲の世を炭がまの煙立つなり
やく炭の煙の果は白雲のかゝる峯よりきゐや行くらむ

霜夜聞鐘
鐘の音も一入冴ねて聞ゆなり今宵の霜や深くたくらん
長柄川渡りて響く鐘の音に橋の霜さへ知るよごろ哉

水鳥馴舟
隅田川漕ぎ行く舟に水鳥の馴れてや騒く氣色だにせず
三島江のうきねの鳥も楫の音に馴れては夢もまどかなるべし

寄雪戀
一夜にて萬里埋めし白雪の深さに似たる我思哉
消やらぬ深きおもひは白雪の夢の間さへも積るなりけり

銀世界
高樓も賤が伏屋もなかりけりたゞ白妙の雪に埋れて

初霜
夜嵐の枕に冷えし夢さめて野守が小屋の今朝の初霜

天長節に初雪降りければ
大君のあれまし〻日を清むらん都大路のけふの初雪

十二月一日の夜こたつに居睡りして足をやきければ
夜船こぐ海士がゐざり火あやまちて我あしのはを燒き拂ひけり

小說 絃のみだれ (三十九)

永井櫻園

「おや、縫ちやんか、能く來て呉れたのね、さあお上り。」

と云ふは師匠の清糸である。

「はあ、モウ少し早く來るんでしたが、つい朝寢したもんですから、遲くなりましたの、どうぞ堪忍して下さいまし。」

「いゝや、堪忍する事はならないの、だけれども、まあ今日だけは堪忍して上げるわ。」

清、いゝ。」

清之助も笑ひながら坐に着けば、清糸は何時になく莞爾々々して、到來物らしい風月堂のカステーラを、輪切にして鉢に盛つて出し

「まあ、一つお摘み、今茶も良いのを入れて上げるわ。」

と、山本園の煎茶を入れて與へた。清之助は常にもなく優待されるので、奈何した事かと不思議に思ひつゝ、先づ煎茶を呑むで

「あの、お師匠さん、御用事があると仰やつたのは、甚麼御用事なんです。」

清糸も茶をすゝりながら

「なに格別な用事でも無いんだがね、某お客からお前さんに與つて呉れと仰やつて預り物爲てあるから、其を上げやうと思つてるの」

本當にお前さんは幸福者だよ。」

「まあ、御用事と仰やるから、私は又來月の席の話か何かと思つて居りましたのに、那樣宜い御用事なんですか、本當に有難うございますこされ、これも皆なお師匠さんのお蔭でございますね。」

と、欣々する。

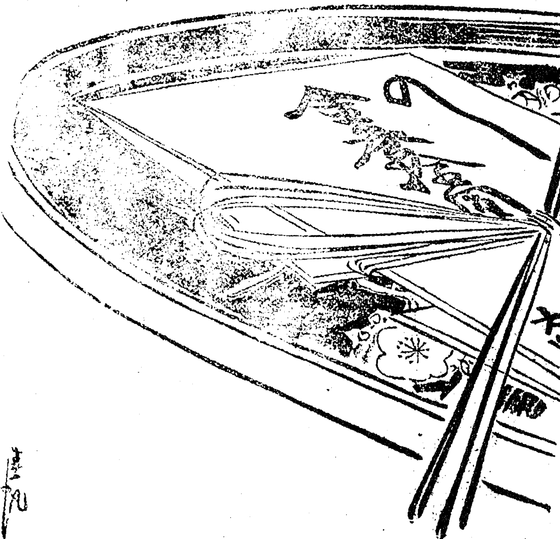
「實はね、斯う云ふ譯なんだ、何時やらの晩、春月へ連れて往つて下すつた大川の旦那ね、あの方がお前さんに後幕でも拵へて景氣を加へて遣りたいけれど、後幕はあの通り澤山貰つて持つてるから、何か外に買ふやうに云つて呉れと仰つて、お金子を包むで私に預けてお歸りなすつたのよ、それを渡さうと思つて呼んだのよ。」

と、長火鉢の抽斗から一封の包に紅白の水引掛けたのを取出して渡した。

「はあ、然うでしたか、唯だ此間も澤山に頂いたばかりなんですに、本當にお氣の毒ですのね。」

と、押戴いて其色の上書を見れば、金三十圓と記してある。

「まあ、お師匠さん、此樣に澤山戴いても いゝのでせうか。」



と、清糸の顔を見る。清糸は笑ひながら

「宜いか惡いか私に分るもんかね、私が與るのでも無けりや貰ふのでも無いもの……だけれども、大川の旦那も與る氣があればこそお與りになるんだから、遠慮なく頂いて置くさ、其代り私は本の取次なんだから、お禮はお前さんが大川さんに直接に言つて下れなきや困るよ、でないと私が奈何かしだと思はれるも厭だからね。」

「そりや、お目に懸つて能くお禮は云ひますけれど、私お氣の毒ですから此まゝお返し爲やうかしらと思ひますの。」

「なぜ、なぜ返すの、折角贔負にして下さるのに……。」

「ですけれど、度々斯樣に頂いては全く相濟みませんもの。」

「其樣遠慮が要るものか、三十や四十の端金に困る大川さんでもあるまいし、下さるものは、臆々と遠慮なく貰つて置くさ。」

雜報

天皇陛下の御親電

一昨三日午後四時十分我 天皇陛下より韓帝へ左の御親電ありたり

韓國皇帝陛下の御懇切なる電信を深謝し朕は陛下及び韓皇室の福祉を祝す 睦仁

德壽宮行幸

韓皇帝には一日午後二時三十分敦化門出御龍朝橋、鐘橋、鐘路、黃土峴より南に入り新橋なる德門前を經て大漢門前に出で大漢門より德壽宮に行幸あらせられ三時三十分惇德殿に於て太皇帝と御對顔あらせられ新年の御儀あり終りて宗親其他德壽宮附文武官に謁見仰付けられ同五時大漢門出御前路を通御還御あらせられたり御還幸の際は文武百官大漢門に奉送したりと云ふ

韓皇の受賀

韓皇帝は一月一日午前十時昌德宮煕政殿に臨御李總理大臣以下各大臣親勅任官に謁見を賜ひ新年の賀詞を受けられ同十時三十分各府部院廳長外國人に謁見仰付けられ午後一時三十分宗親文武官に謁見を賜ひ新年の賀詞を受けられたれば敦化門前に至る間は金色燦爛たる參內者の車馬絡繹として絕へず市內は國旗を揭揚し新年を祝したれば一段の光彩を添へたり

●副統監軍司令官の參賀　曾禰副統監、長谷川軍司令官及び駐剳文武高等官五百餘名は一月一日昌德宮に參內し養心閣に於て韓皇に謁見し新年の賀詞を陳べられたり

年賀者僅かに二名

去る一日在京城米國總領事館へ年賀に赴きたる本邦人は僅かに二名なりしと云ふ常に日米親交の必要を唱導する吾統監府官憲が本年に限り同總領事館への年賀を忘れたるは何の爲なるか其の余輩の知るところにあらざるも右に付在京城外人等は吾官憲が故意に同總領事館を顧みざりしもの〻如く考へ目下種々の噂を爲しつ〻ありと云ふ

●陪食被仰付　昨日は午後一時より昌德宮に於て長谷川大將、曾禰副統監、岡崎師團長、鶴原長官、大屋鐵道管理局長、石塚參與官、香阪法務院長、牟田參謀長、遠藤經理部長、池田通信管理局長、石川技師、荒井、岡、俵の三次官丸山警視總監、廣瀬大尉大藤副官、前間藤浪兩通譯官、佐竹秘書官岩崎少將等にして其の他朝鮮側にありては義親王及各大臣等御陪食仰付られたり

●曾禰副統監の饗宴　曾禰副統監は本日午後六時より統監官邸に於て文武官の重なる人々を招待し新年宴會を開かる〻と云ふ

●李大使の歸京　特派大使として日本へ派遣せられたる特派大使李載覺一行は三日朝釜山に歸着四日太田に宿泊し本日午前六時同地發午後二時南大門着直ちに參內復命さる由

京城の三ケ日

元旦は好天氣にて曾禰副統監は十時三十分公式にて參內し韓皇へ拜賀を爲し一般の士民は日本人倶樂部に於て名刺交換會を催し夫れより各自思ひ〳〵に廻禮を爲し二日三日も倶に好天氣にて廻禮者の東往西去する者尠からず市中は一般に門松を樹て七五三繩を餝りたるも門戶を閉ち或は名刺函を表口に顯はしたる向の多かりしてさ〻て何さなく寂寞の感ありしも料理屋飲食店の如きは何れも朝來三味線太鼓の響閙にて相應に賑ひしやう見受けられぬ

名刺交換會の景況

一月一日午後一時より日本人倶樂部に於て開會されたる官民名刺交換會は列席者六百餘名にて來會者には玄關口に於て加入者の姓名職業の印刷物を交附し食堂には酒肴の備付けあり庭內にはオデン酒の摸擬店を搆へ花月瀰翠井門等の藝妓酒間を斡旋し何れも目出度を交換し充分に新年の祝意を表したり當日出席の重もなる人々は岡崎師團長鶴原參與官其他の文武高等官熊谷居留民長及び民團委員民團商業兩會議員居留地の重なる人々新聞記者及び韓國側日本官吏韓國側實業家にて散會せしは同三時過にて近年になき盛會なりし

●仁川の元旦　仁川の元旦は理事廳民團役所、小學校及各國領事館の拜賀式并に名刺交換會等にて概して例年よりは盛なるものなりき

●各官衙の御用初　昨日は各官衙とも御用初めにて午前中出勤し午後には長官の宅に於て新年宴會の催しあり其の催なき向きは同僚間に祝宴を開きて不平の鳴らし初めを爲したるもありぬべし

●韓國各官衙の御用始　韓國各官衙及宮內府を初め各部各府部院廳とも昨日長官以下出仕御用始めをなし例年の通り執務することとなれり

○內部土木局出張所の新設　從來度支部に屬せし水道事務は新官制の實施と共に內部の所管に移りたるを以て同部土木局は仁川平壤釜山に出張所を設け度支部より事務の引繼を了したりといふ

●內部分課規程　內部分課規程は今回新官制の實施に伴ひ略ぼ脫稿し本明日中に發表の筈なるが之と同時に各課員の任命あるべしと

列國の海軍

明治四十年十二月現在の調に據り列國既成軍艦中に就き一定の規格を定め海上戰鬪に堪ふるもの又東洋に回航し得るものを比較對照すれば左の如し但し此表は列國海軍の總隻數を網羅したるものにはあらず

▲英國

戰艦　五十三隻七十六萬五千八百七十五噸、重砲數八百三十門

裝甲巡洋艦　三十二隻三十七萬二千八百二十二噸、重砲數四百六十四門

裝甲海防艦　七隻七萬三千九百六十噸、重砲數七十一門

一等巡洋艦　二十一隻二十萬千九百五十噸、重砲數二百九十八門

二等巡洋艦　[illegible]隻十五万四千六百八十噸、重砲數[illegible]

三等巡洋艦　[illegible]隻七万二千八百八十五噸、重砲數[illegible]

總計　百七十[illegible]隻[illegible]六十四萬二千百五十[illegible]噸、重砲數二[illegible]

外に驅逐艦百[illegible]隻、水雷艇百五隻、潜水艇四十五隻

△米國

戰艦　二十四隻[illegible]一万七千九百四十五噸、重砲數四[illegible]

裝甲巡洋艦　[illegible]二万八千四百九十五噸、重砲百八[illegible]

裝甲巡洋艦　[illegible]萬二千二百九十四噸、重砲數二十六[illegible]

一等巡洋艦　[illegible]万三千八百五十噸、重砲數四十[illegible]

二等巡洋艦　[illegible]萬六千十七噸、重砲數七十門

三等巡洋艦　[illegible]三萬六千七百二十一噸、重砲數百[illegible]

總計　六十七[illegible]八万八千三百二十二噸、重砲數九[illegible]

外に驅逐艦[illegible]水雷艇三十六隻、潜水艇十二隻

△佛國

戰艦　十九隻[illegible]噸、重砲數二百[illegible]四門

裝甲巡洋艦　[illegible]萬十千六百七十九噸、重砲數[illegible]

裝甲海防艦　[illegible]十六万七千九百九十六噸、重砲數九十四門

一等巡洋艦　[illegible]千萬七千十一屯、重砲數三十門

二等巡洋艦　[illegible]萬一千四百八屯、重砲數[illegible]

三等巡洋艦　[illegible]五萬五千四百五十五屯、重砲數四十[illegible]

合計　八十[illegible]二萬四千九百九十九屯、重砲數[illegible]

外に驅逐艦[illegible]一萬六千六百四十八[illegible]九門 水雷艇二百九十五[illegible]

△獨國

戰艦　二十[illegible]六万八百八屯、重砲數三百八十[illegible]

裝甲巡洋艦　[illegible]七万八千六十七屯、重砲數百十二[illegible]

裝甲海防艦　[illegible]二萬五千七百八十一屯、重砲數三十[illegible]

二等巡洋艦　[illegible]四万七千百五十五屯、重砲數八十[illegible]

三等巡洋艦　[illegible]九萬二千二百十五屯[illegible]

總計　七十[illegible]隻七萬四千六十八屯、重砲數六百[illegible]

外に驅逐艦[illegible]水雷艇七十四隻

△露國

戰艦　七隻[illegible]三十二屯、重砲數百[illegible]三門

裝甲巡洋艦　[illegible]萬六千四百八噸、重砲數八十二[illegible]

裝甲海防艦　[illegible]萬四百七十四屯、重砲數二十七[illegible]

二等巡洋艦　[illegible]萬千七百七十七噸、重砲數九十[illegible]

三等巡洋艦　[illegible]千四百八十五屯、重砲數六門

總計　二十[illegible]万六千七十六噸、重砲數三百八[illegible]

外に驅逐艦[illegible]水雷艇八十八隻、潜水艇三十隻

△伊國

戰艦　七隻[illegible]二百六十五屯、重砲數百六十四門

裝甲巡洋艦　[illegible]三萬九千五百八十八噸、重砲數百三[illegible]

裝甲海防艦　[illegible]四萬九千六百二屯、重砲數四十六門

二等巡洋艦　[illegible]萬九千六百三十三屯、重砲數八十[illegible]

總計　二十八隻二十萬七千八百屯、重砲數四百十九門

外に驅逐艦十七隻、水雷艇百十七隻、潜水艇四隻

●警察署の改革　京城には從來韓人側に東、西、南、北、中の五署あり日本人側に中部理事廳警察署ありしが十一月に理事廳警察署を本町警察署と改稱し續いて署長の更迭ありて去る一日に至り更らに本町警察を南部警察とし南署を南部警察署の分署とし其の他を東西中の部警察署とし西部警察署には新たに韓人の警部一名巡査部長二名內勤巡查二名外勤巡查十八名を置くことゝなり尙は不日韓人町に二ヶ所の派出所を設立する筈なり

●各警察署長分署長任命　新官制の實施に伴ふ各警察署長並に分署長及警部勤務署一月一日附を以て左の如く發表せられたり

釜山	警視	飯田章	(署長)
蔚山分署	警部	藤村源太郎	(分署長)
晋州兼馬山	警視	宮川武行	(署長)
鎭南分署	警部	山下六郎	(分署長)
居昌分署	警部	平方清旭	(分署長)
木浦	警視	道野能通	(署長)
長興分署	警部	坂根利定	(分署長)
光州	警視	坂東榮四郎	(署長)
羅州分署	警部	川坂猪熊	(署長)
全州兼群山	警視	宮舘貞一	(署長)
古阜分署	警部	片岡左一郎	(分署長)
南原分署	警部	小松已生	(分署長)
錦山分署	警部	小松直之進	(分署長)
公州	警視	鈴木重民	(署長)
江景分署	警部	竹內喜一郎	(分署長)
鴻山分署	警部	片岡操	(分署長)
洪州分署	警部	安東友熊	(分署長)
太田分署	警部	和田之盛	(分署長)
大邱	警視	餘島田文之助	(署長)
慶州分署	警部	松永房七	(分署長)
安東分署	同	近藤俊夫	(分署長)
尙州分署	同	井上安定	(分署長)
榮川分署	同	鈴木平作	(分署長)
海州	警視	平渡信	(署長)
瑞興分署	警部	中西清吉	(分署長)
松禾分署	同	佐々木寅彦	(分署長)
平壤	警視	向田幸藏	(署長)
成川分署	警部	橋上九內	(分署長)
德川分署	同	白松討次	(分署長)
寧邊	警視	瀬谷勇	(署長)
定州分署	警部	松本重壽	(分署長)
春川	警視	吉永助一	(署長)
金城分署	警部	白木與	(分署長)
江陵分署	同	沖本正晴	(分署長)
蔚珍分署	同	久藤正男	(分署長)
原州分署	同	狩野近義	(分署長)
忠州	警視	泉研助	(署長)
堤川分署	警部	高津嘉志馬	(分署長)
清州分署	同	藤田治介	(分署長)
永同分署	同	荒井乙兵衛	(分署長)
咸興	警視	松下平助	(署長)
北靑分署	警部	野上代三郎	(分署長)
元山	警視	岡田宜壽	(署長)
永興分署	警部	石川與市	(分署長)
鏡城	警視	高橋淺水	(署長)
會寧分署	警部	相澤謙平	(分署長)
鎭南浦	警部	天野庄四郎	(署長)
新義州	同	是澤眞一郎	(署長)
龍岩浦分署	警部	岡米武一	(分署長)
楚山分署	同	杉田收吉	(分署長)
城津	警部	大島亟	(署長)

●騎兵募集　今回儀仗用として設置されたる韓國騎兵隊營所は景福宮迎秋門前なる前騎兵隊營所を以て充て其兵は本日迄に前解散兵中より撰拔募集すると云ふ

●高瀬副理事官　京城副理事官高瀬經德氏は今回高等官六等に昇叙せられたり聞くところによれば水原居留民は氏が同地駐在中の功勞に酬ゐんが爲同氏に金盃を贈呈したりと云ふ

●黒崎美知雄氏　元韓文國民新聞社長黒崎美知雄氏は今回宮內府奏任事務官に任命せられたり氏は同業者として先輩なる氏が言論の人たるを止むると同時に實務の人となりたるを悅ぶものなり

京義線の將來　某技師談

京義線は日露戰役の爲めに敷設せられたる軍隊輸送の輸送機關として當時そが竣成の期日一日の長短は戰局の上に於て實に多大の影響を與ふるものありしは少しく當時の狀態を知れるものゝ普く解する所なり、故に同工事は非常なる苦心を以て時の山根少將の速成施設に成りたるが彼の多大なる人員を用ひ經費を惜まず敷設したる露國西比利亞鐵道を同一の成績を以て竣工するに至りたるは蓋し非常の好成績と云はざる可らずされば其工事の如きは出來得る限り手を省きて多少の不備を省みる遑なかりしより戰後の今日としては大に遺憾なる點尠からず當局者は爾來專ら之が改修に盡し其結果同線中の難工事と稱せらるゝ魚波隧道の如きは過日既に竣工を告げたるが其他の重要なる工事としては淸川江其他の架橋工事等自今尙經營の慘憺を要するものあり故を以て目下猶之等改修に對する材料の運搬に力を盡し普通貨物乘客の便の如きは兼業として取扱ひ居るに過ぎず然るに知らざるもの否相當の學識あり地位ある人士にして猶且當局者の處置に對し非難を試むる者あるも今日の如き狀態にありては當局者に於ても營業上正に大に獲得し得べき利益を見ながら徒らに之を放棄し居るの姿にして更に鐵道經營者の本然業務の上に於て其途を怠り居るが如く認めらるゝ點あり誠に遺憾とする所なるも幾多の經驗上之を大局より打算して目下營業の損害と一般に對する欠點は今後若干の歲月を期し一意之をして完全なる輸送機關たらしめ永久に確かなる便益を與へ得るに如かざるものなれば其間猶不可能程度に於て一般の便益を圖り引續き改修に從事する筈なり特に鐵道のみに限らず總ての專門事業には獨特の事情を有するものなれば猥に其內容を揣して可否の評を下す可らざるものあり即ち鐵道工事の如きも如何に線路を堅固に敷設すと雖も到底一時の人工若しくは器械力を以ては完全なるものを築かんこと望む可らざる所なり之を從來敷設したる日本內地若くは諸外國に於ける各鐵道の例に徵するも地盤固定し列車運轉の際動搖を感ずるの少なきに至るは少くとも三年間以上の歲月を費さゞるを得ず故に凡て線路は尙五年十年と日時を經過するに從ひ完全鞏固なるものとなる隨て之が竣成當時に於て成績を許する は其當を得たるものにあらず當京義線は其句配平均四十分の一なるが線路は少くも百分の一勾配を以て普通とす京義線今日の狀態にて其輸送力の上に於て同一の鐵道を以てして其不便且不經濟なるもの蓋し圖る可らざるものあり然るに他日若し之を改修して百分の一となさんには今日に比して三倍以上の輸送力を得べし而して今後幽精改修の結果來年中には六十分の一勾配となすを得べく從つて其輸送力今日に比して增大し其他凡ての點に於て一般便益を得るに至るべし更に來々年度に於ては百分の一となす豫定なれば茲に初めて完全なるものを見るべし尙列車に就ては寒氣嚴烈降雪甚しき地方に於ては列車に除雪機を備へあり當線路も昨年は平壤以北に於て降雪甚だしく現に十一月廿日の如きは四十年來絕て見ざる嚴烈なる寒氣にして且つ烈しき降雪の爲め列車の運轉を欠き燃料の採取用水の供給等に非常の困難を見たり今後尙屢々如斯事あるに於ては相當の準備を要す云々因に目下京義線一日の運轉車數は七十輛此積載噸數三萬噸なりと

運送業改善法實施

過般來より鐵道管理局に於ては京仁兩會議所に交渉し運送業の改善方針につき協議中なりしが愈二月一日より左の如く實施する事となれり

鐵道貨物運送取扱人承認及貨物運賃割戻手續

第一條　鐵道の補助機關として荷主及鐵道に對し貨物運送の取次を誠實に營業することを誓ひ且つ別に定むる所の身元保證金を提供したる者を統監府鐵道管理局承認貨物取扱人となす

第二條　當局は承認貨物取扱人にして多額の運賃(發着手數料を除く)を納むる者には每一ケ月間に於ける其運賃額の十分の一を超過せざる範圍內に於て之が割戻を爲す但し割戻步合は別に之を定む

第三條　身元保證金は現金又は當局の指定する有價證券を以て之を指定金庫に納入すべし

第四條　承認貨物取扱人は貨物賃金を取纏め當日午後九時迄に貨物託送驛に納入することを得

第五條　貨物賃金納入時間を經過し納入せざるときは身元保證金より之を控除す

第六條　前條に依り控除したる保證金不足額は直ちに補充すべし

第七條　承認貨物取扱人は當局運輸部長の交附する命令書に對し別に定むる所の資格ある保證人連署を以て請書を差出すべし

第八條　承認貨物取扱人にして本手續に違背し又は不都合の行爲ありたるときは直ちに承認貨物取扱人及運賃割戻の取扱を停止す

●國債報償會の末路　國債報償期成會に於て最初より募集せし金額は一万八千九十三圓餘にして同會經理部長金東圭の名義を以て各銀行に預金し來りしが近來金東圭の行爲に就き不審の點あるより會員中の重なる李東煕現金の調査をなせしに果して四千餘圓の缺陷ありしを發見せしより當臘二十七日其旨警視廳訊問課に申請せしに依り會長吳榮根及經理部長金東圭等を取調べしに同人は擅に其の知人李大赫なる者に貸附けしに李大赫は之を辨償せず終に逃走せる爲め二千五百餘圓の缺陷を生じ尙は自ら費消したる金額千圓以上に達し結局始上の四千餘圓の欠陷を見るに至りしが金東圭は逐一右の顛末を自白したるに依り委托金費消罪を以て目下會長と共に取調中也

南部警察署の盡力

何れの都市に於ても歲末に於ては盛んに竊盜放火犯等の行はるゝことゝなるが當地南部警察署にては豫めこれを慮り舊臘より引續き各町に巡査を配置し嚴警に夜警を爲しつゝあり是れが爲めに盜難等に罹りし者なく何れも幸福なる年を迎へて警察署の盡力を謳歌しつゝあり

●消防組出初式　京城に於ける各消防組は昨日出初式を理事廳構內に於て擧行せり七時の警鐘を合圖に集合し八時二十分組員一同整列し同三十分に高瀬理事官代理これを檢閱し且つ從來の功勞を稱し將來尙一層の盡力を望む旨を告げ次に南部警察署長桐原警視は消防組は水火の賊を鎭定するの軍隊なり宜しく健康にして其の賊の襲ひ來るときは何時にても直ちに鎭定するの用意なかるべからずとて組員たる者は殊に健康を保つことに注意すべく又我消防組は韓國に於ける摸範消防組を以て自ら任じ各自其職に盡すべしと訓示を爲して酒肴料を授け夫より梯子乘の曲を演じて分列式を擧行し南大門通より統監府まで急行演習を爲して散會したり此の日秋吉組長以正服を着けて指揮を掌り集合せし組員は百餘名にして式場には熊谷民團長も參列したり而して午後六時より日本人倶樂部に於て祝宴會を催せし由

洪川郡方面の匪徒

江原道瑞石面渭涼里に集合せる約六百名の匪徒は洪川守備隊及警察隊が討伐の爲め出張せるを前知し退却せるを以て直ちに進擊せしに賊は非常に狼狽し結局首魁洪夫三外二名の死体と負傷者一名とを遺棄し潰走せしが鹵獲品は銃十一金六十六圓等なりと

木曾川丸の座礁

大阪商船會社船木曾川丸は去る一日長崎を出帆し渡韓の途中二日午前二時鄉の浦附近に於て座礁したり然し乘客積荷には損害なかりし由尙目下船体檢查中なれば詳細は追て報導すべし

●松花江の製粉會社　松花江に製粉會社の組織せられたる事は既報の如くなるが今同會社の製造力に就て聞に一製粉所にて一晝夜の製出高壹萬プード(一プード四十斤)にして目下の同會社全製粉所總製造高は一晝夜に二万五千プードなるが之を細別すれば二個所の大製粉所にて一萬七千プード、官用品のみを製造し居る小製粉所にて三千プード及び他の一小製粉所ザズリンスキーにて五千プードの製粉とす而して此等の麥粉は單に東洋の需要に應するのみならず廣く歐洲各國の需要にも應せんがためなりと

社告

吉岡唯一

右之者今般退社爲致候に付ては向後本社に關係無之候間此段廣告す

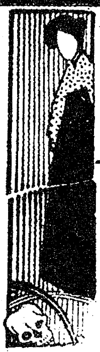
一月一日　京城新報社

特別廣告

緊急廣告

赤門より西小門迄の間に於て(要書類入)ポッケット入茶色折鞄一個遺失致候に付御心當りの御方は下名へ御通知被下候はば相當御禮可致候

京城永樂町二丁目　岡田組　金田春吉



東京市松人形の結婚

さゞなみや近江國蒲生郡金田村字上田の橋口佐兵衛(二十五)といふ人あり第四師團歩兵第九聯隊に入營中日露の戰爭起りたれば同人は伍長として出征しけるが時は三十八年三月の二日北臺子の夜襲に日本男兒の膽力を見よと突貫格鬪、勇を揮ひ血をそゝぎて身に數ケ所の重傷を負ひ治療上遂に手足を切斷せねばならぬ事となりぬ、かくてこの勇士は、この丈夫は兩手兩足を失ひ大阪天王寺豫備病院に收容せられ厚き治療の結果辛うじて一名助かれたり、されど同人の上官等は悉く戰死せしことゝて同人の功勞を申し傳ふるものなきゆゑにや取りわきての恩賞にもあづからずとて世間の同情一入深く橋口勇士の入院以來さまぐに慰問したり中にも大阪愛國婦人會員八田八重子(二十二)等は同志と謀りて春秋二回異會の廢兵慰籍の催しあるを幸ひ其の時特に橋口勇士を歡迎して當地娛樂界の娛樂といふものを悉く見せ聽かせて樂しませる事とせり或人「手も足も君にさゝげし兵士のまことの姿あふげなみ人」とよみて勇士を賞讚しけり、その後勇士は畏くも　皇后陛下より義手義足を賜はり名譽光榮身に餘りたるが左りとて痛ましや殘の手や足はなき[illegible]ば妻を迎ふることも出來ず又進んで[illegible]らうといふ者もなきを八重子の父大阪[illegible]大寶寺町西の町の八田金治郎氏思ひやりていろく心を碎きぬ、この金治郞氏は白髮染商にて日露戰爭中は軍人狂と呼ばるゝほど軍人のために力を盡し自分は言ふも更なり女八重子にも其意を含めて朝には病院に傷病兵を慰問して花束を贈り夕には梅田や築港に赴きて軍隊を送別して萬歲を唱へける、されば橋口勇士にますく同情を寄せ、われ八重子が相緣女ならずば直ぐさま嫁に進すべきを、それも變なしとやうやく思案の末人形屋に注文して美しき市松人形を別製し其の人形にさくら子と命名して八重子の妹に擬らへこれを橋口勇士に贈りて切めて心を慰めんや先づ人形さくら子の寫眞を勇士に示して內意をきゝたるに勇士の喜び譬ふるに物なく、かほどまでの御厚情感謝するに言葉なし橋口佐兵衛生涯の面目としてさくら子どのを妻に貰ひ受けたしとの事に八田の一家は大いに滿足しサア緣談調ふた嫁入の支度いそがしや呉服屋を呼べ小間物屋を呼べオッと白粉は不用々々、衣裳は紋附の外四季の召し料幽禪裾模樣寒うては風邪を引く暑うては夏瘦せすると左ながらわが子を育む夜の鶴のありさま人形とはいへさくら子も有難涙を流すべしまして橋口勇士の嬉しさいかばかりぞや、かくて新年一月三日元始祭の日を擇び八田氏は八重子同道にて人形さくら子を伴ひて江洲に赴き嚴肅に結婚の式を擧げしとぞ、敷島の大和心を具へたる丈夫と朝日に匂ふさくら子との契り八千代かけて目出度しく

●新年雜俎　正月となれば昨日の鬼が笑ひ面で來ると云ふ如く何れの人も福々として笑ひ面で暢りとして春めき居るは有り難き正月にぞある元旦は何れの人も屠蘇の利き目が多かつたと見へ紅の顏を惜氣もなく風に曝らせ千鳥足の紳士もあれば金筋にサーベル威めしき統監府員が〻の字なりに步き先きに步ける婦人に向ひ目出度の愛嬌を振り巻きつゝ行く人もあつた各料理屋は屠蘇酒の飮み足らぬのか何樓も絃歌湧くが如く夜に入ても花月掬翠井門等の藝妓などは殆んどお茶挽きしものはなく如何に口かけても御生憎樣なりしは昨年の不景氣に引變へ仲々上景氣なりし如く見受けられたり遊廓は又た料理屋に比し霜枯師走より引縮ての好景氣にて紋日のことゝて何れの樓も裝飾を凝らし妓共は紋付に一段と化粧を凝らし居るさ各商家の番頭丁稚など一年中の休暇を與へられしと屠蘇の元氣に依りて繰込むもの少からず何樓も此樓も浮たくの大亂痴嬉騷ぎにて非常の景氣なりし此等の阿房烏が多き爲め毎日新年であればどホクく喜んだのは樓主と車屋のみであつた

社告

簿記の心得あるもの一名(二十歲以上三十歲迄)至急入用希望の者は本社へ來談あれ

十二月　日　京城新報社

●日曜說敎　本日午前十一時及午後七時半の二回理事廳横丁なるメソヂスト敎會に於て基督敎說敎あり傍聽隨意なり

●太平樂　君が代三杯の屠蘇に微醉の口花咲かして千代々々と雀の囀りをなし若くは巖の如く倒れて前後正体もなく眠るも皆これ治まれる御代の惠みなれども南大門外藥峴の秀水編(三十)といへるは二日の夕刻旭橋の邊りに醉ひ倒れ居りしが見る內に轉げて川に墮ちたるも尙は眼を覺さず寢ね居れるを巡回の査公が認めて引き連れ醉の覺むるまで保護し大分縣生れの河野孫一といふは三日の夜本町通りを傍若無人に蹌踉廻り通行人の妨害を爲すよりこれも警察署の厄介となりしが三朝間は他に警察事故とてもなく寔に目出度てともなり

●小喜多村一座の開演　曾て當地に於て藝妓酌婦はいふも更なり風船玉の如く尻の輕い妻君や令孃達を騙着し男地獄とまで評判されし小喜多村とか呼べる河原乞食は再び當地旭町歌舞伎座に乘り込み目下開演しつゝありとのことなれば娘子持てる親達及び縹緻き妻持てる人々はゆめく油斷あるべからず既にある令孃は浮身を窶し居らるゝとの投書舞ひ込みたれども今回限りは反古籠に葬り置くべし

廣告

歸朝中に付歲末年始の禮を缺く

本願寺　大谷尊寶

謹賀新年

京城時計商組合（イロハ順）

本町一丁目　市川時計店
本町六丁目　服部時計店
本町四丁目　電話二六二　織居時計店
永樂町　川合時計店
蛤町　加藤時計店
本町四丁目　中村時計店
水原南大門　薬田時計店
本町一丁目　福地時計店
小廣橋　小林時計店
太平町一丁目　寺島時計店
蛤町　赤帽子時計店
本町四丁目　電話一三四　木島時計店
本町五丁目　三浦時計店
仁川港新町一丁目　島名時計店

貸席待合　ま乃花

南山町一丁目(植村病院前)

客室は清潔にして叮嚀なるは本店の特色に御座候

營業科目

活版活字鑄造
石版銅版
コロタイプ
彫刻諸印刷
諸帳簿
製本裝釘

日韓印刷株式會社

本社　京城明治町三丁目(電話三一三番)

仁川出張所　仁川港海岸埋築地(電話仁川二五五番)

東京出張所　東京市京橋區南鍋町一丁目十番地(電話新橋三九六二番)

金用濟幼年にて悪徒の爲め誘拐され十日前外出の儘歸家せず此頃聞く處によれば印章を僞造し負債をなさんとするやの風說あれば內外人此奸手段に欺むかれざる樣謹告す

中署貫洞二十五統一戶　金斗晏

工學博士 藥學博士 高峰讓吉氏發見

위창 胃腸 신약 新藥

타카 タカヂアスターゼ

韓國一手御元　仁川倉知商會　電話三一三〇番

會席御料理並に仕出し

西小門內　橫濱亭

是迄本町通に於て營業罷在候處今般新築家屋に移轉仕候然る處都合により一時營業の全部を中止仕候營業中は不一方御愛顧を蒙り候段奉深謝候尚時機を待て再び營業仕候間更に舊に倍し御引立を蒙り度候謹て新築移轉御披露旁營業中止の御挨拶申上候也　頓首

弊店儀

京城南大門通九番戸

(加) 三好和商店 (專用電話一五三番)

味噌醬油製造
乾物荒物罐詰
銘茶食料雜貨
漬物問屋　大上商店

京城本町五丁目(電話二五一番)

原金旅館

本店　仁川理事廳通(電話三三一番)

支店　京城南山町(電話一〇七番)

會席御料理

並に仕出し大勉强仕候

京城本町座隣　蝶々

電話六三〇番

最新特許

チャンピオン消火器

合資會社中央商會

本社日本東京淺草區茅町

出張所京城明治町二丁目

材木薪炭商並ニ

鐵道貨物取扱運送業

韓國京義線新幕停車場前

(モ) 田村保吉

電信略號(マルキ)

西洋御料理宴會

日本人俱樂部

京城南山町三丁目(電話一二三番)

一各種石炭大販賣

大の浦塊炭

豆田塊炭

大辻塊炭

ストーブ用として右三種取寄せ貯炭罷在り御希望に從ひ多少に拘はらず迅速御屆け可申上候

三池粉炭

鍛冶用として貯炭罷在り多少に係はらず御用に應し可申候

當社一手販賣炭左之通り

三池、田川、伊田、山野、金田、豆田、津波黑、藤棚本洞、大の浦五尺、大の浦三尺、笹原、滿の浦芳雄、大辻、白岩、柚木原、岸嶽等

三井物產合名會社

京城出張所(電話二十六番)

仁川出張所(電話六十三番)

化粧品小間物

京城本町四丁目

河村百貨號

電話

木炭着荷

京城南大門通三丁目

英兄弟商會

電話九四八番

新築移轉廣告

弊院儀從來の家屋にては狹隘を感し候間今般肩書の處へ新築移轉仕り一層叮嚀懇切に各科の治療に應じ可申候

追而無代施療券配布方を民團役所へ托し置き候に付藥價に苦む貧民諸氏は該券請求の上持參あれば無料治療に應可申候

長谷川町二丁目

蘇生病院

新築落成

龍山元町壹丁目

會席御料理 八景園

電話四六番

公債株式現物

可嚀、確實、安價に取扱申候間多少不拘御用命之程奉懇願候

龍山町(青木病院前)

質商 梅尾圓八商店

銀行一般の業務精々御便利に御取扱可申候

資本金三百万圓

本店 大阪市西區北堀江通五丁目

支店 釜山 仁川 平壤 鎭南浦 安東縣

株式會社 第五十八銀行京城支店 (電話五八番)

爲替取組先		
內地	二十七ケ所	二十八ケ所
東海道	十三ケ所	十ケ所
山陽道	十五ケ所	十三ケ所
南海道	七十三ケ所	十ケ所
北陸道	五十三ケ所	三ケ所
山陰道	二ケ所	三ケ所
東山道		九ケ所
西海道		
北海道	二十ケ所	一ケ所
韓國		
臺灣	五ケ所	

銀行一般業務精々御便利に取扱可申候

資本金 參百萬圓

積立及繰越金 七拾貳萬圓

京城南大門通(電話四二〇)

株式會社 十八銀行京城支店

本店 長崎市築町

支店出張所 大阪、熊本、佐世保、嚴原、五島、壹岐

韓國 京城、龍山、仁川、木浦、釜山、元山、羅州、群山

日本

其他日本韓國樞要地及露領浦鹽に爲替取引先あり

貯蓄預金(一口壹錢以上何程にても御預り申候)(利息日步壹錢四厘)

長崎貯蓄銀行代理店(十八銀行京城支店)

新造最良口附紙卷煙草

진조최량ᄒᆞᆫ물부리지권연초

滿月

本店 東京市日本橋區兜町

內地支店及出張所 大阪、京都、橫濱、神戸、名古屋、四日市、下關、兵庫、伏見、大阪西區、東京新大阪町

韓國支店及出張所 仁川、釜山、元山、木浦、群山、馬山、鏡城

及清國出張所 平壤、大邱、鎭南浦、成興、城津、安東縣

株式會社 第一銀行京城支店

		電話番號	
總支配人	市原盛宏	營業部	一一番
副支配人	竹山太郎	當直用	同一二番
國庫部支配人		營業部	三三二番
副支配人	三島純平	國庫部	六一番
調查部長		用度係	六二二番
副支配人		分析所	六二二番
營業部長	市村雄次		

大隈伯爵序文(体裁四六倍形紙數約參千頁 舶來紙刷背革金文字入美本)

日韓商工人名

目下印刷製本中

◉本書は日本銀行日本勸業銀行を始め其他有力なる實業家の贊成により日韓通商貿易の發達を助長せしむる目的を以て刊行す

◉本書は日本全國及韓滿の兩地を其範圍とし三國商工業地誌を始め主なる實業家の氏名住所、營業種目、商標、所得稅額、營業稅額並に銀行會社の種別重役の氏名、資本財產等より各商業會議所議員、全國重なる商工組合の事情及多額納稅者、官衙、辯護士、醫師病院、學校等迄詳錄し尙各地產物商品の種類、集產統計は勿論運輸交通の形況、戸口里程に至る迄實業に關する必要の事項は悉く網羅せり

◎本書の特色は發行後に於て登錄者の移動及納稅額等調查の依賴に應すると共に各種の事故を通信報道し以て座なから遠近の事情に通じ取引先の近況を知悉し總ての災害を未前に防ぎ安全に取引し得べき一大機關ならしむるにあり

◉苟くも諸會社事業の成績を審にし新會社の性質を究め商家の營業程度を知らんと欲する者は須く本書を備へ各種の通信を受けざるべからず

◉本書に加入を望まるゝ向は直接本社に照會せらるゝか又は韓國出張員と便宜御相談せられたし

目下韓國へは所員武井啓次郎、杉浦和作の兩名出張中

東京市京橋區新富町三丁目

合資會社 實業興信所(長電話新橋三二五七番 振替貯金口座九三五三番)

內外書籍新聞雜誌

和洋雜貨日用品

文房具學校用品

大阪朝日新聞 一ケ月四十五錢

同 每日新聞 一ケ月四十五錢

京城本町三丁目

平田商店(電話百十五番)

營業科目

土地家屋鑛山山林賣買ノ仲介

土地家屋鑛山山林貸借測量製圖應依賴

灌漑排水事業設計應依賴

土地整理竝丈量應依賴

鑛山竝未墾地出願代辨

土地家屋賣買證明願手續代辨

外國旅劵出願代辨

新聞廣告取次

電話賣買取次

韓國に關する著書雜誌閲覽

韓國に關する非賣出版書閲覽

韓國に關する本社調查書類閲覽

商品依託持約代理店ノ仲介

▲本社は誠實秘密且敏速に業務を營む

▲本社は各方面に涉り各事項を調査す

●建物の賣物 ●鑛山の賣物 ●田畑の賣物 ●宅地の賣物

明治四十年十二月廿日認可

明治四十年十二月廿五日開業

本社 京城永樂町一丁目八番戸假事務所(電話架設中)

京城仲介社

支社

東京	東京麴町區富士見町	伊藤豐二郎
大阪	尼ケ崎字宮町	由比昌太郎
仁川	仁川新町二丁目	遠藤喜平
釜山	釜山入江町一丁目	加納佐一
木浦	木浦山手通三丁目	谷垣嘉市
鎭南浦	鎭南浦西二丁目	古田稻甫
開城	開城西部	今福又三
水原	水原府南門內	木野村甚太郎
元山		菅鍋平
鏡城	鏡城北門內	菅支店

右當分の間にて倘各地に設置準備中

開店披露

弊店儀從來仁川に於て通關運送業罷在候處今般京城各位の御勸誘に隨ひ南大門驛通りに支店開設仕候間何卒倍舊御立の程伏て奉懇願候 敬白

仁川驛上

通關運送 小宮山店

電話七二六番

京城南大門外

同支店

入院隨意

十全病院

京城旭町三丁目

電話七三七番

○●○●○●○●○

熊平製造金庫

東京 竹內製金庫

大阪二重瓶並ニ回轉式 消火器

韓國販賣部

京城本町一丁目

熊平商店

電話六二四番

○●○●○●○●○

統監府御用

各官衙荷物荷造及運搬

本店 本町三丁目 (電話七百三十二番)

營業部 明治町 (電話四十番)

伊藤組

伊藤友松

營業科目

諸官衙御用品調達

紙類、書籍

印刷附屬品

印刷インキ

防腐デシン

穀物食鹽

織物染料

各學校用品調達

並に

委托販賣

東京 合資會社アライアンス商會代理店

橫濱 百七十六番 ビユームエンドライフ商會代理店

東京 千代田生命保險相互會社代理店

東京 博文館發行書籍特約店

東京 金港堂發行書籍特約店

釜山 臺鹽合資會社食鹽特約店

藤田合名會社

本社 京城明治町二丁目 電話二三〇番

支店 仁川港濱町二丁目 電話一五番

出張所 東京京橋區南鍋町一丁目 電話新橋三九六二番

日本郵船株式會社

仁川出帆廣告

●釜山長崎門司神戸行 山東丸 一月二十五日午後三時出

●釜山門司神戸大阪行 淡路丸 十二月三十一日午後三時

●群山、木浦、釜山、門司、神戸、大阪行 浦汐丸 一月五日午後三時出

第一オハヨ號 一月五日午後三時出

●大連、大沽行 酒田丸 一月 日後一時出

●大連行 發口丸 十二月 日後三時出

高砂丸 十二月三十一日後一時出

●大連、秦皇島行 山東丸 一月十四日前九時出

●鎭南浦平壤行 第一オハヨ號 十二月 日後三時出

浦汐丸 十二月 日後三時出

●釜山出帆、元山行 弘前丸 一月二日

御注意 御乘船ノ際ハ...

貨物及船客取扱店

仁川海岸通 **郡司回漕會**(電話三九番)

京城南大門通 **巴商店**(電話三〇六番)

嶄新發明 三德炬燵販賣

本炬燵は

第一 德用 △僅かの炭火を以て長時間の溫熱を保つ

第二 便利 △容積小にして重量極めて輕し

第三 安全 △如何に轉倒せしむるも火氣の漏るゝ憂なし

一度御試用の上其三德の効用を御高評あらんことを希ふ

京城大和町軍司令部通

藤垣兄弟商會

新聞賣捌

京城日報 一ケ月四十錢

大阪朝日新聞 一ケ月四十五錢

東京朝日新聞 一ケ月三十七錢

萬朝報 一ケ月三十三錢

時事新報 一ケ月五十錢

大阪時事新報 一ケ月三十五錢

右各新聞迅速確實に配達仕候尙今回申込所を設置仕候間御便宜鄰堂及申込所に御申込被下度候

京城大漢門前

盛文堂(電話四二六番)

申込所

大和町一丁目 田中商店

本町二丁目 江見商店

南大門外 目良商店

入院隨意

京城醫院

京城壽町一丁目

電話七四二番